

第三者意見書

企業の社会的責任への取り組みや、情報開示活動についての専門家である、環境監査研究会代表幹事・GRI理事の後藤敏彦様に、コスモ石油グループ サステナビリティレポート2004の第三者意見をお願いしました。

コスモ石油グループ サステナビリティレポート2004を読んで

環境監査研究会代表幹事・GRI理事

後藤 敏彦



「ずっと地球で暮らそう。」「ココロも満タンに」というスローガンはおもしろいですね。経営層はもちろん、従業員一人ひとりが心からそのように思う企業風土の確立こそ「皆さまから信頼される誠実な企業活動」の基盤となると思います。その企業風土が企業ブランドにつながります。企業ブランドは、それを享受するお客様のものでもあります。コスモ・ザ・カード「エコ」はその相互交流の象徴であり、企業ブランディングのバロメーターになるでしょう。そのキーは本業についての多様なステークホルダーとのコミュニケーションであると思います。

サステナブルな社会の実現に向けての積極的な活動のためCSR・環境推進室を設置されたのは昨年提言させていただいた「システムの取り組み」の第一歩であり、評価するとともに今後の成果に期待します。総合エネルギー企業を目指す御社はサステナブルな社会の中心テーマとして環境をとり、「環境で選ばれるコスモ石油グループ」を目指されています。トップ緒言、ビジョン、対策等首尾一貫していますが、具体的なコミットメント、具体的な数値目標につなげてあげればもっとよいでしょう。

たとえば、環境について次の3つの分野を挙げておられます。①事業活動での環境負荷低減と、地球規模での環境保全。②技術開発。③総合エネルギー企業を目指す中での新エネルギーの模索。ブーア21にするところで数値化されていることは評価できますが、②と③についても定量的な目標がほしいところです。昨年10月に作成された米国国防総省の危機シナリオ・レポートなども考えると、危機が現実のものとなるかどうかではなく、危機にそなえての「新エネルギーの開発」はリスクマネジメントの観点からも急務と思います。

報告書としては昨年指摘させていただいたことがかなり改善され読み易くなっています。しかし、たとえばブーア21に落とし込むとき個々の施策が環境の三本柱とどう関連しているか、すこしわかりにくいです。また、さまざまなデータをデータブックとして分離して整理されているのは工夫の一つとして評価できます。しかし、データ集を専門家向けのものとするならば、報告書本体は一般向けにも少しわかりやすく工夫することも検討の余地があるように思います。細かいところでは、PRTRについては測定だけでなく削減計画、もしくは経年比較もほしいところです。

社会性報告についてステークホルダーとのかかわりを切り口に整理されているのも工夫の一つで、データ集のGRI対比表は、数多い社会性項目の網羅性のチェックリストにもなっています。洩れをなくすにはステークホルダーとの対話なども必要になってくるでしょう。現時点で社会性項目の多くが定性的記述となるのは企業共通の問題ですが、データブックの充実でこれをブレイクしていただきたいと存じます。

以上